

『サボり上手な動物たち 海の中から新発見!』という本のタイトルを見て思わず手が伸びました。イルカをはじめ、海の動物たちが厳しい自然を生き抜くために実はサボっている!私も上手にサボれるようになりたいです。(高畠)

後一時の開店時には子ども達の行列ができ、賑わいにもう一つ華を添えた。コロナ前まで使っていたプロパンガスの綿あめ機は引退、電気で作る新しい器械に変わり、初めは少しきこなかった綿あめ担当のスタッフだったのが、ひっきりなしに訪れる子どもお客様に、直ぐに慣れた手つきで対応していた。

お祭りのハイライトは太鼓と子ども神輿の巡行。しかし、実行委員の皆さんは猛暑日一步手前の暑さを心配し、特に小さな子ども達に綱を引いてもらう太鼓の巡行は取りやめ、高学年以上の小学生が担ぐお神輿だけ、神社前の道路を往復してお祭りの体裁を整えた初日だった。ところが初日の反省会で、巡行の安全支援に来て頂いている第四消防団の方や、随行員、そして何よりもお祭りに来られた



電動式の綿あめ機が復活



大盛況のスーパーボールすくい

子ども達と保護者の方々から、異口同音に残念だとの声が聞かれたとのこと。それに応えて2日目は太鼓もお神輿も巡行を実施したが、やはり変わらぬ暑さに予定のコースをかなり短縮することとした。おかげで参加者からもスタッフからも一人の事故者を出すことなく、無事2日間のお祭りを終えた。

2日目は午後4時に終了、売店やゲームコーナーの片付けに取り掛かるスタッフを横目に、名残惜し気なお子さんの手を引いて家路を急ぐご家族。突然小さなお子さんが「楽しかったー!」と大きな声で一言。ご家族からもスタッフからも笑い声が上がり、「そう、良かったね。また来年も来ようね」。スタッフにとっては、2日間の疲れも一瞬で吹き飛ば一言だった。ゲーム

コーナーのゴム鉄砲射的やコリントゲームなどで子ども達の対応をしたスタッフの一言「子どものゲームと言っても、大人が真剣に相手がしないと子どもも真剣にならないですよね。ちゃんとわかってる。」地域の小さなお祭りだからこそ味わえる地域のぬくもりです。



白山通りの山車の行進



参加した子どもにお菓子のおみやげ



お祭り終了後の直来（なおり）

布田小地区地域運動会

元氣いっぱい

秋晴れの青空の下で

昨年10月20日の日曜日、前日の19日には記録的に遅い真夏日30度越えて、当日の天候が懸念されたものの、すっきり秋晴れの青空の下、布田小施設開放運営委員会主催の第40回布田小地区運動会が開催された。コロナ禍で数回の中止の後、2023年の再開を経

て本格的な地域運動会にしよう、と、実行委員の面々も力が入ったようだ。早速校庭に行ってみると、北側校舎を背に運営本部のテントが設置され、トラックの南と東の観客席には木陰を選んで沢山のブルーシートが広げられていた。ベビーカーも近くに停めて



大人も混ざって一緒にスタート

地域の活躍びと

今号で紹介する地域の活躍人は、2024年度から布田小に導入された学校運営協議会の委員をされている西原幸子さん。学校運営協議会とは随分いかめしく感じるが、協議会を導入した学校をコミュニティ・スクールと呼ぶので、その方が親しみが湧くような気がする。公式には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいて、地域と一体となつて子どもたちを育む「地域とともにある学校」を実現しているという国ぐるみの施策なのだ。調布市では2023年度から順次、小・中学校への導入が始まり、布田小は導入開始2年目の導入校になった。

西原さんは布田小への導入が決まった2023年度末、当時の樋川校長先生から「布田小にも学校運営協議会が導入されるので、委員をお願い」されたとのこと。お願いされた西原さんもスナリ？引受けられたのは、それまでの布田小での活動の実績と楽しい経験がおりだったから。西原さんのお子さんは二人とも布田小卒業生、在校当時からPTA副会長や健全育成地区委員、学校開放などの委員や役員として活動を続けられて9年になるそうだ。そういった活動の背景には、お

西原 幸子さん

(にしはら さちこ)

～布田小学校運営協議会 会長～
(コミュニティスクール)

さんが布田小に入学する時には、ご近所総出で「入学おめでとう」の声に見送ってもらった感激と、共に子育てをしてくれた地域への感謝の気持ちは忘れられない、と西原さん。

布田小の学校運営協議会の正式な場合は原則一学期に一回で、その時には校長・副校長先生始め出席されて、学校の運営方針から日常の諸問題まで話し合われる。学

校運営協議会委員は地域の立場から、あるいは校内では気づきにくい意見を述べることもが本来の役割だ。それ以外にも学校からの依頼で、ちょっとした学校行事の相談をかけるようなこともあり、会社組織になぞらえればアドバイザーとか社外役員のような位置づけと理解した。

今、西原さんがフルタイムで勤務されている調布市薬剤師会（一般社団法人）は、地域社会の薬事・公衆衛生への貢献も重要な役割。会員薬剤師が調布市内各小中学校の学校薬剤師を担っており、学校の衛生環境の定期検査や薬物乱用防止の教育を行っている。また、小児への休日診療を行っている調布市たづくり保健センターの調剤部門も、薬剤師会の担当だ。

こんな西原さんの信条は「行政や社会・地域は何をしてくれるのだろうと考えるのではなく、私が地域や社会に対して何か出来ることは無いのだろうか」だそうで、地域の活躍人を絵に描いたような方と言えるだろう。「子ども達には自分が育った地域を好きになって欲しいんです。そうすれば大人になって別の地域に住んでも、自分たちの子どもを同じように育てて、地域と人との良い循環が広まって行くと思うんです。」と話される西原さんは、お名前の通り地域に幸いをもたらす方だと思つた。

(取材・藤田秀雄)

副校長先生も
リレーに参加

最終種目のリレー



した様子のママ委員「ウン、見てた見てた」。大丈夫、どんなに忙しくても、君が走る時には手を止めて見ていたよ、と余計な一言をかけたくなつてしまった。運営委員席の一面で、運動会の最初から最後まで、プログラムの進行や出場希望者の募集、更には競技中の実況まで、爽やかな声でアナウンスを担当された長岡由子さん。4人のお子さん全員が布田小、今は下の二人が在校生とのこと。「今日参加されている全体的に方々のパワーが、地域運動会に相應しい晴天を呼び込みに違いないと思います」地域のファミリィで企画から運営・実行、そして参加した全員が楽しんだファミリィ・イベントは、ほのぼのとした想いに包まれていた。

(文・藤田秀雄)